

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2391400096		
法人名	有限会社サン		
事業所名	グループホーム虹色		
所在地	愛知県名古屋市長区桶狭間北三丁目106番地		
自己評価作成日	令和4年10月23日	評価結果市町村受理日	令和5年4月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2391400096-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市長区三本松町13番19号		
訪問調査日	令和5年1月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム虹色は母体組織が病院なので、介護における医療面でのケアが充実していると考えています。特に精神疾患を併せ持つ認知症の方への対応が充実しています。人工透析をされている方にも、隣接する協力医療機関である「おけはざまクリニック」で透析を受けていただけますし、日常の健診や定期受診も受けていただけます。また職員の教育にも力を入れており、認知症、拘束、虐待等の講習や勉強会を独自に開催したり、セミナーや研修にも参加出来る環境を積極的に作っています。隣接する関連施設と連携し、ボランティアによる演奏会や色々な催し物を共催し楽しんでいます。又、緊急時の対応も協力し合える体制にあり、訓練等も合同で行っております。高齢者特有の疾患や介護に関する市民講座を開催し、地域の皆様に多数の参加を頂いており、今後も地域に密着したサービスの提供を実施していきたいと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは1ユニットであることで、少人数の利用者に寄り添った支援が行われている。同一建物内にデイサービスを併設して運営しており、管理者が両事業所を兼務していることもあり、日常的に事業所間で連携した支援が行われている。感染症問題が続いていることで、外部の方との交流が困難になっているが、例年は、デイサービスで行事等が行われる際には、グループホームからも利用者が参加する機会がつけられており、利用者同士の交流の機会にもつながっている。医療面での支援については、運営母体が医療機関であることで、利用者の健康状態等に合わせた柔軟な支援が行われている。感染症問題が続いていることで、利用者の外出が困難な状況が続いているが、協力医療機関がホームの隣りに開設されていることで、受診を通じて利用者の外出の機会にもつながっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所に提示してあり、朝の申し送り時、職員で共有している。	ホームの理念を職員の支援の基本に、朝礼の時間に職員間で理念を唱和する取り組みを継続している。理念には、ホーム名である「にじいろ」の文字からも考えており、愛着を持ってもらう取り組みも行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	以前は散歩などに出掛けた時は近所の人と挨拶や会話を日常的にしており交流を深めているがコロナのため散歩など外出を自粛している。	地域の方との交流が困難な状況が続いているが、例年は、運営法人の関連事業所とも連携した中学生の職場体験やボランティアの方の受け入れが行われており、地域の方との交流につなげている。例年は、併設のデイサービスを通じた交流も行われている。	感染症問題が続いていることで、地域の方との交流が困難な状況が続いているが、今後の状況をみながら、地域の方との交流が再開されることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナの影響で開催されていないが、普段は定期的に市民講座を開催している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年もコロナの影響で集会での開催は出来ていないが、二ヶ月に一回文書等による報告をしている。	会議については、書面による実施が続いており、会議の関係者に書面の配布を行いながら、ホームの現状を報告している。また、会議を運営法人の関連事業所との合同で開催しており、運営法人の事業所全体に関する報告が行われている。	会議については、書面による実施が続いていることもあるため、今後の状況をみながら、会議の再開に向けた検討、取り組みにも期待したい、
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事務局側が積極的に連絡をとり、市の介護保険課を訪れ、会議の内容を報告している。	市担当部署との情報交換については、運営法人の事務局を通じて行われており、ホームの運営への反映につなげている。また、当ホームについては、デイサービスを併設していることで、併設事業所を通じた地域包括支援センターとの交流も行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内に身体拘束排除宣言を掲示し職員の意識を高め共有している。また合同会議などで研修を行っている。	身体拘束を行わない方針で支援が行われており、当ホームについても出入り口に施錠を行わない時間をつくる等、職員間で利用者を見守る支援が行われている。また、身体拘束に関する定期的な検討や職員研修が行われており、職員の振り返りにつなげている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	合同会議で学ぶ機会があり、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度等を活用されている利用者があるので学ぶ機会がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に利用者様やご家族が不安にならないようしっかり説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見、要望を聞けるよう玄関に意見箱を設置してある。また面会時ご家族の要望などがあれば耳を傾けている。	家族との交流が困難な状況が続いているが、可能な範囲で交流を継続する対応が行われている。家族からの要望等について、事務局による対応も行われているが、ホーム管理者による対応も行われている。毎月の利用者毎の便りの作成も行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事業所のミーティングなどで職員から出た意見や提案は、合同会議や管理者会議に反映させている。	随時のミーティングの機会をつくり、職員から出された意見等を管理者が把握し、事務局にも報告され、業務改善等につなげている。1ユニットである利点を活かし、日常的に管理者との意見交換等の機会がつけられており、随時の職員一人の把握が行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の個々の能力を把握して実績に応じた賞与の査定を行っている。また年二回本人希望で職場の異動もあり働きやすい環境を取り入れている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	それぞれの職員に適した、研修や講習会に参加する機会を提供している。また合同会議で各事業所の事例発表を企画し職員の質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍のため出来ていないが普段は研修会などに参加して同業者と意見・情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	導入段階では、管理者、ケアマネがゆっくり時間をかけ傾聴し不安に思っていることを探り、その人に合ったサービスを計画し、職員全員が同じ意見で対応し、安心して生活できるよう取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人を交えての話し合いとご家族だけとの話し合いの機会を作り、要望などを聞いている。アセスメントに重点を置いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族が一番望んでいることを引き出せるよう傾聴の時間を多くとって、今必要としているサービスを見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る範囲で参加していただきクッキング配膳、備品の補充、洗濯物たたみ、野菜の採取など行って頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月便りで行事を報告し参加の声掛けをしたり、面会時には必要としている情報を話している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの影響で外出を控えているが、普段は外食を楽しまれたり、支援に努めている。	外部の方との交流が困難な状況が続いているが、併設のデイサービスを通じて、入居前からの関係の方との交流の機会がつくられている。家族との外出も困難な状況が続いているが、感染症の状況にも合わせながら、可能な範囲で外出の機会が得られている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の性格を把握し席替えをしたり、日常のレクリエーション以外でも、関連施設のイベントに参加し交流を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、利用者のご家族から近況を伝えてくださることもある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話が苦手な方や困難な方には日々の行動や表情から把握するよう努め、職員間で情報を共有している。	1ユニットのホームの利点も活かしながら、利用者の意向等を職員間で日常的に共有する取り組みが行われている。随時のカンファレンスが行われており、利用者や家族の意向等の検討を重ねながら、日常の支援につなげる取り組みが行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居されてからアセスメントを密に行い、生活歴を大事にして個性を尊重しその人に合った支援が出来る様努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録、申し送り、連絡帳などで入居者様の個々の状態を把握しチームケアに取り組んでいる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画を立てる時は利用者によく話し合い、職員からの情報を取り入れ、また家族からの要望は面会時や電話で話したりしている。変化がある時は計画の変更をしている。	介護計画については、6か月を基本に見直しが行われており、利用者の状態変化等に合わせた対応が行われている。日常的にも、介護計画の内容に合わせたチェック記録を残す工夫も行い、3か月のモニタリングにつなげる取り組みが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や連絡帳などで気づいた事、情報を記入し職員同士で共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者のニーズに対応できるよう、さまざまな支援の方法を話し合い検討して、柔軟な支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年もコロナ禍のため出来ていないが、近所の盆踊りや移動図書館、敬老会に参加したり、訪問理美容も利用している。中学校の職場体験もあります		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関での受診が多いが、要望があればかかりつけ医の受診を支援している。	運営母体が医療機関である利点も活かしながら、利用者の健康状態等にも合わせた医療面での柔軟な支援が行われている。職員による受診支援も行われており、家族との連携につなげている。また、看護師が勤務しており、医療面での支援が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態の変化などその都度職場内の看護師に連絡し、適切な対応が迅速に出来ている。また、訪問看護も利用し、日常の健康管理等のアドバイスも受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者・ケアマネが見舞い等で面会に行き、情報を得て職員間で共有している。家族・病院との連絡を密に取り、早期退院に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に「重度化した場合の対応方針」の同意書を頂いている。ご家族、ご本人の意向を聞き、ターミナルケアの支援に取り組んでいきたい。	身体状態が重い方も生活を継続しており、食事や入浴等、その方に合わせた支援が行われている。家族との話し合いを通じて、看取り支援が困難であることを説明しながら、段階に合わせて医療機関への移行等、次の生活場所への案内等も行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	合同会議で、応急手当対応訓練を実施したりAEDの使い方を職員に訓練している。マニュアルも整備し、参加出来なかった職員にも、対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練を行っており、日頃から入居者様、職員の意識を高めている。	年2回の避難訓練については、夜間を想定した訓練や通報装置の確認等が行われている。併設のデイサービスとの合同の訓練を実施し、事業所間の連携につなげている。また、備蓄品については、当ホーム及び運営法人で確保が行われている。	感染症問題が続いていることで、近隣にある関連事業所との協力関係の取り組みも困難になっている状況でもあるため、今後の状況をみながら、協力関係につながる取り組みにも期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄時の声掛けには、自尊心を損ねない支援を職員間で共有できるよう努めている。	基本理念には、利用者への支援の基本が掲げられており、日常的な振り返りを通じて、利用者に「にこやか」に接する等、職員の意識向上にもつなげている。また、職員の接遇に関する研修も行われており、職員の振り返りにつなげる取り組みも行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が意思や希望を表せるような接し方に心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調や状態等を考慮し、その人のペースで生活出来るよう支援している。職員全員が同じ支援ができるよう取り組んでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に一度訪問理美容を利用して、ご本人の希望に沿った支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の配膳のお手伝いを職員と一緒にしている。各利用者様に合わせ、盛り付け、色合い、食器などに注意し工夫をしている。	食事については、外部業者を活用しながら提供が行われており、利用者の身体状態に合わせた食事形態の対応も行われている。定期的に「クッキングの日」として、材料か食事作りを行う取り組みも行われている。季節等にも合わせた食事の提供も行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様一人ひとりに対応した食事形態（普通食・ミキサー食・ソフト食・ゼリー食）で提供している。摂取量は、食事量と水分量を記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを施行している。週一回訪問歯科に来て頂いている。歯科技工士と連携ノートで情報を共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に記入し、個々の排泄パターンを把握し、様子を見ながら時間を決め、トイレ誘導している。自立を促し出来る限り、トイレでの排泄に取り組んでいる。	利用者にも合わせて排泄記録を残しており、職員間で情報交換を行いながら、一人ひとりに合わせた支援につなげている。トイレでの排泄を基本に考えながら、協力医や看護師との排泄に関する医療面での連携も行き、排泄状態の維持、改善につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表で確認を行い、食事・水分はもちろん適度な運動を心掛け予防に努めている。また滞っている時は下剤を使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴順は、ローテーションを取り入れ定期的に入替を行っている。体調や希望により柔軟に対応している。また入浴剤などを使って楽しんでもらっている。	利用者が週2回の入浴ができるように、入浴を拒む方にも声かけ等を行い、定期的な入浴につなげている。併設事業所の浴室に機械浴が設置されており、利用者の身体状態に合わせた対応も可能であるが、複数の職員の支援での入浴も行われている。	現状、週2回の入浴が行われているが、支援体制をつくりながら、週3回の実施に移行する検討が行われている。利用者の清潔保持や楽しみにもつながるため、今後に向けたホームの取り組みに期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調に合わせて、いつでも休息できるよう支援している。日中は適度な運動で、夜間スムーズに入眠出来るよう心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬状況は個々の薬剤情報をファイルに閉じ、常に確認できる状態にある。誤薬・飲み忘れのないよう二重確認をし、投薬時には読み上げ確認の徹底をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの能力に応じて配膳、体操や食事の号令など役割を持って生活出来る様支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	今年もコロナの影響で出来ていないが、普段は年間行事にて外出や外食に出かけている。	利用者の外出が困難な状況が続いているが、協力医療機関がホームの隣りにあることで、受診を兼ねた散歩の機会がつけられている。例年については、季節等に合わせた外出行事や関連事業所の行事に参加する等の外出支援が行われている。	利用者の外出が限られた範囲となっていることもあるため、今後の感染症の状況をみながら、利用者の外出の機会が増えることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる利用者様には、自由に買い物したり、支払いが出来る環境作りをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の要望に応じ事務所の電話で家族等とお話出来る様支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様と一緒に手作りの季節の壁飾りをホールに飾って明るい雰囲気を感じている。トイレを誘導する貼り紙で、利用者様が混乱をまねかないよう工夫している。	リビングは広めの空間が確保されていること他にも、建物の2階に開設されていることで、日中は明るい雰囲気となっている。リビングの壁面には季節等に合わせた飾り付けや利用者の作品の掲示が行われており、アットホームな雰囲気づくりが行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブル席で各々自由に過ごされており、また居室以外でも独りになれるよう事務所前の玄関に椅子を置いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビ、タンスなど、ご本人の馴染みの物や大切なもの等が置かれ、その人らしく居心地よく過ごせる工夫がされている。	居室には、利用者や家族の意向等にも合わせた家具類や好みの物等の持ち込みが行われているが、シンプルな雰囲気の方もあり、一人ひとりに合わせた居室づくりが行われている。居室にベッドが備え付けとなっており、現状、全員の方がベッドで過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室やトイレの場所を誘導する張り紙や使用中の看板、居室のネームプレートには写真を貼り、生活できるように支援している。		